The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	色彩語を含む強意直喩表現の形式比較 : as-simileと複合語
Author(s)	竹森, ありさ
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2024, 2023, p. 75-84
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/97344
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

色彩語を含む強意直喩表現の形式比較
―*as*-simile と複合語―

竹森ありさ

1. はじめに

強意直喩表現には、形式上二つのパターンが存在するとされる。一つは、(1)に示した(as) adj. as noun の型のもの、もう一つは(2)に示した noun-adj.の型である。

(1) a. white as snow
b. black as pitch
c. green as grass
d. red as blood
(2) a. snow-white
b. pitch-black
c. grass-green
d. blood-red

(1)と(2)に挙げたものは色彩語を形容詞にもつ直喩であるが、それ以外の形容詞—*clear as crystal* は *crystal-clear*、*dry as bone* は *bone-dry* などにも平行した形をもっているものが見られる。本稿では、(1)と(2)に例示したような色彩語を含む強意直喩の二つの形式の相違点について論じる。(1)に見られる型を *as*-simile、(2)に見られる型を複合語と呼び分けて扱う。また、本稿では、“Her skin is white as snow/snow-white.” の “her skin”にあたる色彩語の叙述対象である名詞(句)を tenor/主意、*as*-simile で *adj. as* に続く名詞(句)、または複合語の名詞(句) “snow”を vehicle/媒体と呼ぶ。

以下、2 節で先行研究を紹介し、3 節で研究方法と分析した強意直喩表現のデータを提示し、*as*-simile と複合語の特徴を比較して述べる。4 節で特徴に関して考察を行い、5 節で結論と今後の課題を述べる。

2. 先行研究

2.1 二つのパターンの比較研究

as-simile と複合語型の比較研究として、Novoselec & Parizoska (2012)、Parizoska & Novoselec (2014)が挙げられる。彼らは、英語とスウェーデン語、クロアチア語における *as*-simile と複合語型の直喩を比較し、後者の形式の方が意味の幅が広いという差異を指摘している。*as*-simile では表現されない範囲の意味を複合語型が表し、それは abstract meaning であると主張する。すなわち、*as*-simile は形状や質感など具体的な(concrete)ものに使われる一方、複合語型はそれに加えて抽象的な叙述対象も含む。英語の例では、 *sharp as a razor* の叙述対象には knife, blade, lawn edger などの concrete な物体と mind がある一方、*razor-sharp* は concrete なものと人の性質(賢さ)、humour, reaction, observation などの主意が見られ、*razor-sharp* の対象の方がより幅広い(2014:185)。*black as pitch /pitch-black* では、*black as pitch* は concrete meaning のみに使用され、*pitch-black* は “pitch-black humour”や “pitch-black comedy”などの例が見られると述べている(2014:185)。

しかし、両者の型で意味分化しているという考えには議論の余地がある。Novoselec & Parizoska(2012)、Parizoska & Novoselec (2014)が英語の用例を収集したコーパスは British National Corpus(BNC)である。BNC において *black as pitch* の用例を筆者が検索したところ、6 例であった。*pitch-black* は BNC で 15 例あり、そのうち Novoselec & Parizoska (2012)、Parizoska & Novoselec (2014)が abstract とするような無形の主意を含む例は “pitch-black comedy”の 1 例である。ハイフンなしの *pitch black* の例は、BNC で 40 例あり、abstract な名詞を修飾するのは 40 例中 1 例の “pitch black humour”である。それぞれ 1 例のみというのは例外的であって、(as) adj. as noun 型よりも noun-adj.型が abstract meaning を表す傾向にあると主張するには慎重にならなければいけない。また、後述するように、*green as grass* は「草のように緑色」「未熟」の意味をもち、*grass-green* は色についての描写のみに使用されるという例があり、Novoselec と Parizoska の見解とは逆の直喩が存在する。さらに、concrete/ abstract という分類が強意直喩の意味を扱う上で適切であるのかという疑問点がある。この点については次節で論じる。

2.2 直喩表現の意味

強意直喩表現の中心的な意味は形容詞であるが、媒体によって含意(connotation) がある(Norrick 1986:42)。Moon (2008)はこの Norrick (1986)の主張に、媒体によって "humour, affective meaning, and other features of interpersonal meaning"などを伝達できると付け加えている(2008:9)。

Cruse(2011)も直喩の含意について指摘しており、直喩には記述的(descriptive)な解釈と暗示的(connotative)な解釈の両方が可能であり、どちらであるかは曖昧だと述べている(2011:255)。

(2) a. The juice of these apples is like wine.
b. His house is like a palace.

(Cruse 2011:255)

(2a, b)に記述的な解釈を与えるならば、「リンゴジュースがワインのような味や見た目をしている」「彼の家は大きく豪華で、たくさんの装飾がされている」という意味になる。しかし、暗示的な解釈をするならば、肯定的な評価で、ワインや宮殿から文化的に連想されることを喚起する。つまり、リンゴジュースにワインのような特別感、家が宮殿であるかのような特別感を直喩の使用者は感じていることになる。

色彩直喩の場合、例えば "Waving her hand, white as a lily"[1]という描写は、純粋に白さ、つまり concrete な面だけを記述として伝えているかは疑問が残る。この女性の手が白いというだけではなく、*a lily* の媒体によって、百合から連想される清純さが含意としてあると捉えることもできる。

ここまで、2.1 節で *as*-simile と複合語の意味内容の相違点、2.2 節では、直喩の含意の存在について触れた。Novoselec & Parizoska (2012)、Parizoska & Novoselec (2014)の研究では、*as*-simile と複合語の違いは叙述対象の幅であり、後者の方が abstract な意味をもつと述べているが、観察した用例について過度に一般化していると言える。また、concrete/abstract という分け方は、直喩の媒体が含意を生むことを考慮すると、再考すべき点である。concrete/abstract 両方の性質を直喩はもっているためである。

Parizoska と Novoselec は直喩の意味に着目したが、本稿では、色彩語を含む強意直喩の二つのパターンについて、意味以外の部分にも注目して相違点を概観する。

次節では、研究方法と用例を観察し、二つの型の特徴を説明する。

3. 研究方法とデータ

本節では、色彩語を含む強意直喩表現の二つの型—*as*-simile と複合語の比較方法とその結果を述べる。用例を採取したコーパスは BNC と the Corpus of Contemporary American English (COCA)の二つである。コーパスの基本情報は表 1 に示した。Novoselec & Parizoska (2012)、Parizoska & Novoselec (2014)は BNC を使用したが、BNC のサイズでは *as*-simile の用例数が少ないため COCA も併せて使用した。扱う色彩語は、用例数が 1、2 番目に多い *white* と *black* を対象とした。

表 1 本研究使用のコーパス

コーパス名	時代	ジャンル	総語数
British National Corpus (BNC)	1980 年代~ 1990 年代	Spoken/Written	S:約 1000 万 W:約 9000 万 FIC:約 1600 万
Corpus of Contemporary American English (COCA)	1990 年代~2010 年代	Spoken/Written	S:約 1.3 億語 W:7.5 億語[2] BLOG/WEB:2.6 億語

複合語には vehicle と adj.の間にハイフンがあるものとないものが存在する(e.g, *pitch-black/pitch black*)。形容詞としてはハイフンを含むのが通常である。本稿では形容詞として複合語を扱うため、ハイフンありの形式を採取対象とした。

[1] コーパス HUM19UK より引用。

[2] Written には TV/MOVIES のジャンルを含んでいる。

以下、*as*-simile と複合語の直喩についてコーパスから得られた用例を観察し、どのような使用特徴が見られるかを検討する。3.1 では用例数、3.2 では媒体の特徴、3.3 では形式と意味について述べる。また、3.3 では *white/black* の他、*green* について触れる。

3.1 用例数について

BNC と COCA のコーパスにおける *as*-simile と複合語の頻度について概観する。BNC と COCA で *white/black as* に続く名詞にはどのような語彙が現れるか、上位 10 項目をコロケーション右 4 語で調査した(名詞限定でレマ化した)。さらに、その 10 項目に出現した名詞-色彩語で複合語の形についてリスト検索を行い、まとめたのが表 2.1 と 2.2 である。

white as に続く名詞については、BNC と COCA の両コーパス間で type の大きな差はなく、7 項目が同じ語である。複合語の形では、BNC と COCA ともに *snow-white* が最も多く、BNC の *death-white* と *ghost-white* は例がなかった[3]。*as*-simile で高頻度な *white as a sheet* は、複合語 *sheet-white* では低い頻度という結果が両コーパスに出た。

black as に続く名詞上位 10 語では、二つのコーパスで共通した語彙が *night/coal/pitch/midnight/raven* の 5 つであり、*white* よりも差が見られた。*hair* や *sky* という色が定まっていない vehicle も COCA で現れた。これらの 10 項目の名詞-色彩語で検索すると、 BNC の *thunder-black/ hell-black/anthracite-black* と COCA の *hair-black/sky-black* は例が見られなかった。また、両コーパスの *as*-simile で頻度の高い媒体の *night* を含む複合語は、3 例(BNC)、18 例(COCA)と低頻度であった。

表 2.1　BNC における *white/black* の直喩検索結果

white as noun	頻度	noun-*white*	頻度	*black as* noun	頻度	noun-*black*	頻度
sheet	23	sheet-white	1	night	10	night-black	3
snow	20	snow-white	43	coal	6	coal-black	15
paper	5	paper-white	2	pitch	6	pitch-black	15
death	3	death-white	なし	thunder	4	thunder-black	なし
ghost	3	ghost-white	なし	midnight	3	midnight-black	3
clown	2	clown-white	1	hell	2	hell-black	なし
pearl	2	pearl-white	1	anthracite	2	anthracite-black	なし
chalk	2	chalk-white	10	jet	2	jet-black	45
marble	2	marble-white	3	raven	2	raven-black	5
bone	2	bone-white	5	velvet	2	velvet-black	1

表 2.2　COCA における *white/black* の直喩検索結果

white as noun	頻度	noun-*white*	頻度	*black as* noun	頻度	noun-*black*	頻度
snow	109	snow-white	301	night	92	night-black	18
sheet	100	sheet-white	5	coal	40	coal-black	126
ghost	53	ghost-white	18	pitch	24	pitch-black	368
bone	23	bone-white	93	ink	20	ink-black	43
paper	15	paper-white	19	midnight	18	midnight-black	14
chalk	15	chalk-white	40	tar	13	tar-black	11
milk	15	milk-white	81	hair	11	hair-black	なし
moon	13	moon-white	11	raven	11	raven-black	18
marble	10	marble-white	12	ebony	10	ebony-black	3
cloud	7	cloud-white	8	sky	10	sky-black	なし

また、noun-*white*/noun-*black* でもリスト検索を行い、その結果の上位 10 項目は、表 3.1 と 3.2 の通りである。複合語の用例が *as*-simile より多いのは Moon(2008)で言及されており(2008:32)、色彩形容詞の直喩の場合も同様であると言える。

[3] COCA では、*death-white* は 3 例である。ちなみに *dead-white* の方がより用例が多く 23 例である。BNC において *dead-white* は 3 例観察される。

表 2.1 と 2.2、表 3.1 と 3.2 を比較すると、上位 10 項目中で使用される媒体の語は *as*-simile と複合語と共通しているものと相違しているものとが混ざり合っている。表 3.1 と 3.2 の灰色の箇所は、表 2.1 と 2.2 と同様の媒体を含むことを示している。*white* については、*as*-simile での上位 10 項目のうちで共通しているのは、BNC で *snow-white/chalk-white/bone-white/marble-white/paper-white*、COCA では *snow-white/bone-white/milk-white/chalk-white/paper-white* であり、それぞれ 5 項目ずつ異なる。*as*-simile の 1 位・2 位を占める *white as snow* と *white as a sheet* の頻度が非常に近い値である一方、複合語での 1 位・2 位は例数の差が開いている。

black の複合語の媒体は、*as*-simile 上位 10 項目と同様のものの方が多く、BNC では *jet-black / coal-black / pitch-black / raven-black / night-black / midnight-black* の 6 つ、COCA では *pitch-black /coal-black/ ink-black/ raven-black/ night-black/ midnight-black/tar-black* の 7 つであった。両コーパスにおいて、複合語は *pitch-black/ jet-black/ coal-black* が比較的頻度が高いことが分かる。

次節では、*as*-simile と複合語を比較し、媒体の相違点について指摘する。

表 3.1 BNC で noun-*white*/noun-*black* の検索結果

noun-*white*	頻度	noun-*black*	頻度
snow-white	43	jet-black	45
milk-white	14	coal-black	15
lily-white	12	pitch-black	15
chalk-white	10	soot-black	6
ice-white	8	raven-black	5
bone-white	5	ink-black	4
silver-white	4	night-black	3
marble-white	3	midnight-black	3
paper-white	2	bead-black	2
moon-white	2	blood-black	2

表 3.2 COCA で noun-*white*/noun-*black* の検索結果

noun-*white*	頻度	noun-*black*	頻度
snow-white	301	pitch-black	368
lily-white	130	jet-black	347
bone-white	93	coal-black	126
milk-white	81	ink-black	43
chalk-white	40	raven-black	39
silver-white	40	night-black	18
pearl-white	30	midnight-black	14
dead-white	23	soot-black	12
sugar-white	21	tar-black	11
paper-white	19	charcoal-black	18

3.2 媒体の機能

as-simile と複合語は *white as snow/snow-white* のように同様の語彙を使用している比喩表現であるものの、媒体に注目すると両者には違いが見られる。*as*-simile の媒体の際立った特徴は、複合語のそれよりも自由度が高いという点である。すなわち、vehicle に言葉を付加して、どのような媒体なのかを説明しているものや、使用する場面や作品に関連したものが見られる。辞書には強意直喩は "(as) white as snow" "(as) white as milk" "(as) black as ink" "(as) black as a raven"のようにフレーズが記載されているのが通例だが[4]、コーパスでは、*as white as fresh snow* や *as black as calligrapher's ink* のように、どのような雪か、どのようなインクかといった情報を付け足されている例が(3)のように見られる。*black as a raven* の直喩については、COCA の例では *feathers/wings/underwing/sheen* など raven の体の部位が付け足されている。(3e)は wing の例である。

[4]『リーダーズ英和辞典(第 3 版)』と『新英和大辞典(第 6 版)』は "(as) white as snow"だけでなく、 "(as) white as (the) driven snow"も記載がある。

(3) a. His hair was **as white as fresh snow**.
b. And we looked at the soil in the trench and it was **as white as bright snow**.
c. …my skin **as white as milk in a blue china cup**.
d. His eyes were **as black as calligrapher's ink**.
e. Silks **as black as raven's wing**

(COCA)[5]

また、その状況や作品などに登場したり、言及されたりする人の身体部位やものを直喩の媒体として使用する例がある。(4a)は窓外より見える雪、(4b, c)は登場人物の髪、(4d)は夜の場面であり“she”は暗い中にいる。(4b, c)のような媒体が登場人物の身体部位の場合は、主意も身体部位であるという例が観察される。

(4) a. His newly pressed coat fitted perfectly, his linen was **as white as the virgin snow beyond his window**…
b. His eyes were nearly **as black as his hair**.
c. Her eyes, **black as her hair**…
d. She was silent, her mouth tight, controlling a flash of temper **as black as the sky**.

(COCA)

as-simile では媒体の情報を豊富にできるという特徴がある。*sky* や *hair* などの媒体を用い、複合語よりも文脈依存的な比喩になると言える。複合語の媒体には説明が付加される例はないため、複合語は創造性が劣る傾向にあると言える。

3.3 *as*-simile の型と意味

hair など色が一定ではない媒体を *as*-simile がとれることを考慮すれば、*as*-simile と複合語は完全に置換可能ではない。この他に、*as*-simile としてイディオムになっているものは、その複合語がコーパスに観察されなかったり、例が存在しても *as*-simile と同様の意味をもっているとは限らない。すなわち、(as) adj. as noun の型が失われると、noun-adj.型にしても意味をなさないものがある。これに当たるのが *black as thunder* で、「とても怒って」の意味をもち、(5)のように使用される[6]。

(5) a. He was **black as thunder** when she said your mum was a pro[7].
b. His grip was like iron bands around her wrist, his face was **as black as thunder**…

(BNC)

色彩語を含みながら「黒い」の意味をもたず、*thunder-black* は BNC にも COCA にも例はない。

white を含む強意直喩表現でイディオム性が高いのは、*white as a sheet/ghost* であり、(6)と(7)に示すように、これらはショック、体調不良や死などで顔色が悪い様に中心的に使われ、使用文脈の固定度が高い。このような顔面蒼白の使用は、COCA においては *white as a sheet* では 89/100 例、*white as a ghost* は 51/53 例である。BNC では *white as a sheet*(23 例)、*white as a ghost*(3 例)の全ての用例が、顔の青白い様に用いられている。

(6) a. She was white, **white as a sheet**, and obviously very sick. (COCA)
b. You're **as white as a sheet** and you're shaking. (BNC)

(7) a. She was bleeding and **white as a ghost**. (COCA)
b. She was **as white as a ghost**, and her eyes were shadowed as if she hadn't slept properly for weeks. (BNC)

---

[5] 以下、コーパスからの用例の強調は筆者による。

[6] *black as thunder* には類似表現として、have a face like thunder がある(『新英和大辞典』、*Oxford IDIOMS Dictionary for learners of English* 参照。)

[7] prostitute の略である。

COCA では *sheet-white*、*ghost-white* の複合語がそれぞれ 5 例、18 例あるが、これらに顔面蒼白が含まれるのは *sheet-white* で 2 例、*ghost-white* で 3 例である。この 2 つに観察される顔面蒼白以外の例では、虫、手や白髪、衣服などが主意となる。*sheet-white*、*ghost-white* も(as) adj. as noun の型がないことで、*as*-simile と複合語とで意味の差異が生じるケースであると考えられる。

(8) a. I …touched at the insects ’delicate bodies, at their **sheet-white** wings…
b. His famous shock of red hair was now **ghost-white**; the skin as thin as parchment.
c. I saw her lying all twisted in a **ghost-white** nightgown on the backseat of her father's Continental.

(COCA)

white/black に限らず色彩語を含む直喩のうちで、*as*-simile と複合語とで異なる意味を表す最も顕著な例は、*green as grass/grass-green* だと言える。COCA のコーパスで *green as grass* は 20 例あり、文字通りの「草のように緑色」と「未熟」の両方の意味が観察される。(9a, b)は色を表し、(9c, d)は経験のなさについて述べられたものである。

(9) a. She had the most beautiful green eyes I'd ever seen. **Green as spring grass**.
b. Hers(=eyes) were green, **as green as spring grass**, like her mother's.
c. I was a young knight, **green as grass**.
d. Tim had… known that she was **as green as grass**, and he'd played to that naivet every step of the way.

(COCA)

一方、複合語の *grass-green* は 50 例存在し、以下のような例があるが、色に関する例のみで、*green as grass* のような「未熟」などの人の性質に使用しているものは見られない。

(10) a. The reporter peered at him through **grass-green** contact lenses…
b. Look closely, and Susan's wearing a **grass-green** peridot and pearl ring on her engagement finger…
c. …you're looking for a smooth, **grass-green** hill with a small castle of gray stone at its top.

(COCA)

Novoselec & Parizoska (2012)、Parizoska & Novoselec (2014)の主張と異なり、*green as grass/grass-green* の場合は複合語ではなく *as*-simile がより広い意味をもっている。Novoselec & Parizoska (2012)、Parizoska & Novoselec (2014)の主張するような、主意が concrete/abstract であるかの違いが形式によって生じているというより、主意・色彩語・媒体の 3 者間の意味と性質が相互に関わっていると考えるのが重要である。

ここまで、*as*-simile と複合語の頻度や媒体の特徴や意味の差異について概観した。次節では、*as*-simile と複合語とで高頻度の媒体が異なる点、*as*-simile の媒体に見られる説明付加の現象について考察し、直喩の形式の影響について取り上げる。

4 考察

4.1 媒体の意外性

3.1 節で指摘したように、*as*-simile で高頻度な媒体のうち、複合語の場合は低頻度になるものが見られた。*white as a sheet* は BNC で 23 例、COCA で 100 例と頻度が高いが、*sheet-white* では BNC で 1 例、COCA で 5 例であった。また、高頻度ではないものの、BNC で現れた *white as ghost*、*white as death*、*black as hell* には、*ghost-white*、*death-white*、*hell-black* の形はなかった。

このような差が生じるのは、複合語は色名としての性質が強いことが影響していると考えられる。福田(2023)はスカイブルーやグラスグリーンなどを「2 次的色彩語としての色名」と分類し、これらの特徴として「基本色彩語で表される色カテゴリーの中から特定のある色を指定する場合、その色の特徴を明らかに備えた誰もが知っている事物の名前を借りてその色を表すことが多い」と述べており(2023:284)、その色をもつもののプロトタイプが色名になると言える。複合語の媒体に選ばれる語には、色や形が曖昧で色らしいものを連想しづらく、その色が特徴とは認

められにくい事物が避けられることが原因となって、*sheet-white*[8]、*ghost-white*、*death-white*、*hell-black* は例数が少ない、あるいは観察されないと考えられる。COCA の *black* を含む強意直喩表現では *black as death*、 *black as soul*、*black as hell*、 *black as sin* など観念的な媒体を含んだものが見られる[9]。複合語の場合は *soul-black*、 *hell-black*、*sin-black* は例がなく、*death-black* は 1 例見られる。これらの媒体は coal や jet などと異なり、視覚によって色を知覚できるものではない。*black* と媒体の象徴的意味の重なりが中心となって生じた *as*-simile であるため、複合語がない、あるいは例が少ないと考えられる。

as-simile の媒体の場合もプロトタイプ性が概して高く、色に対して意外な媒体が少ない。しかし、複合語と異なり、媒体について詳しく述べられる例があり、これは意外性の程度に関わる。4.2 節では、*as*-simile の媒体に情報を付加されることを述べた。(4a)に挙げた例のように、どのような媒体か描写を加えることで snow のステレオタイプを強調することができる。(4a)の媒体は "the virgin snow"であり、汚れていない雪であることが強調されている。

(4) a. His newly pressed coat fitted perfectly, his linen was **as white as the virgin snow beyond his window**…

同時に、媒体の詳述によって意外性を強めることも可能である。(11)の媒体の雪は「母が埋葬された墓の雪」であり、(4a)に見られるような清らかな *snow* のイメージとは異なる陰鬱さを帯びている。

(11) …a pillow that slowly smothers him, a pillow as soft and **white as the snow on the cemetery where his mother is buried**.

(COCA)

as-simile の媒体は cliché を構成するものであるが、媒体の様子を伝えることによってステレオタイプ、あるいはそれから外れたものを喚起させる効果をもつと考えられる。

4.2 マーカーの存在の影響

先述したように、複合語は色名としての位置付けに近く、そのため、ある色をもつもののプロトタイプが複合語の媒体として選択される可能性がある。故に、*death-white*、*hell-black*、*sky-black*、*hair-black* などのその色の典型と認めにくい事物を含む複合語の形はない。複合語には色名としての性質を有する一方、*as*-simile にはその構文によって、色の基本義以外のメタファー的・メトニミー的な意味を喚起したり固定したりする機能があると言える。

イディオム性のある *as*-simile として、*black as thunder/green as grass/white as a sheet/ white as a ghost* を 3.3 節で挙げた。*black as thunder* と *green as grass* の色彩語には、次の比喩義が含まれている。

(12) adj. black II.14.b. Of a situation or prospect: foreboding, threatening; (of an expression or look) full of anger or hatred.

(13) adj. green II.8.c.Of a person, or his or her powers or capacities: immature, raw, untrained, inexperienced. Also of an animal, esp. a racehorse or dog: untrained; frequently in to run green: to run in an undisciplined manner.

(*OED*)

また、*white as a sheet/ white as a ghost* の *white* は(14)に示される意味であり、病気や恐怖のメトニミーとなる直喩である。

---

[8] 現代では *white as a sheet* の sheet が何と捉えられているかは曖昧である。辞書サイト Dictionary.com では、*white as a sheet* のフレーズを "white as a sheet: very pale in the face, as in *She was white as a sheet after that near encounter*. This simile, from about 1600, survives despite the fact that bedsheets now come in all colors." と説明しており、この媒体を寝具のシーツと見なしている。

[9] *black as death* は 10 例、*black as soul* は 5 例、*black as hell* と *black as sin* はそれぞれ 8 例である。

(14) adj. white I.4.a. Abnormally pale or pallid, esp. from illness, or from fear or other emotion. Frequently in (typically hyperbolic) similes (cf. as white as a sheet at sheet n.[1] 3c), in extended use designating an emotion causing pallor (as white rage, white terror), or in allusive phrases expressing cowardice (cf. white-liver n., white-livered adj.).

(*OED*)

as-simile は複合語と異なり、比較のマーカーを含んでいる。直喩は *as* や *like* などの明示的形式の存在により、あえてシュールな意味、皮肉的な意味を伝えることが可能である(三田 2023:27-28)。上に挙げた例はシュールさやアイロニーではないが、*as* の存在により色彩語以外の意味が際立つ効果があると考えられる。また、*as*-simile は複合語よりも媒体の自由度が高く、比較的長めに説明を加えても vehicle として成り立つ。ニュアンスを非常に細かくして伝えるのは *as*-simile の型が可能にしている。

複合語はマーカーが欠如していることによって、プロトタイプ性の高い媒体が好まれ、意味の不透明さが許容されにくい性質が生じていると言える。しかし、(15)のように字義以上の意味をもつ複合語は存在するため、複合語では色の以外の意味が固定しにくいというわけでは決してない。主意・色彩語・媒体の関わりや、直喩の使用背景なども考慮に入れる必要がある。

(15) lily-white. *adj.*

1 ユリのように白い
2 純粋な; 汚れのない; 非の打ち所のない
3 《米話》黒人排斥を主張する(グループの)
4 《米俗》〈町などが〉白人のみから成る; 白人会員専用の.

(『ランダムハウス英和大辞典(第 2 版)』)

4.3 考察のまとめ

3 節で *as*-simile と複合語のコーパスデータを提示し、相違点について指摘し、4 節では分析を行った。*as*-simile と複合語とで、同じ媒体が平行して頻度が高い表現がある一方、高頻度な white as a sheet や white as a ghost が、複合語では頻度が低いという結果が見られた。また、色が定まっていない sky や hair、抽象的な hell などの媒体が *as*-simile にある一方、複合語には例が観察されなかった。この不均衡さは、複合語が色名に近く、*white/black* の色をもつもののプロトタイプが vehicle として選択される傾向にあることを指摘した。*as*-simile の媒体も同様にプロトタイプ性が高いと言えるが、どのような媒体かを直喩使用者が自由に描写を加えられる点は複合語と大きく異なる。媒体のステレオタイプを強調したり、逆に意外性をもたせたりすることが、媒体の説明部分の機能だと考えられる。これに加え、*as*-simile でイディオム性が高いために、複合語では同じ形容詞と媒体を使いながら異なる意味をもつ例が存在したり、複合語の例がなかったりするという結果が生じた。この相違は *as*-simile の直喩の構文が、物理的な色の意味に加え、メタファー義やメトニミー義を喚起・固定する役割を果たしていると分析した。創造的かつ多様な意味を表す傾向がより強いのは、*as*-simile としたが、主意も含めたより詳細な分析が必要である。

5. 結論と課題

本稿では、強意直喩表現に見られる二つの型—*as*-simile と複合語—について、色彩語 *white* と *black* を含むものを対象に比較した。先行研究では、複合語の方が表す意味の幅が広く、abstract meaning をもつという傾向が指摘されていた。しかし、*as*-simile が abstract meaning を表す例があることや、複合語の abstract meaning の例が少数であること、直喩の含意の存在などを踏まえ、両者の型の違いが何であるかを整理した。コーパスから用例を採取すると、複合語と *as*-simile の両方において媒体の頻度が同じものが見られるもののほか、複合語と *as*-simile のどちらかは低頻度になる、あるいは複合語の例が見られない直喩が観察された。また、媒体の形式面では、*as*-simile が説明を付加できることと、意味・含意が固定した *as*-simile については、複合語の例がないか、存在しても同じ使用傾向にはならないという特徴を述べた。このような差は、次の 3 つに起因すると考えられる。すなわち、①複合語が色名に近くプロトティピカルな媒体が選ばれる点、②*as*-simile の媒体がより自由度と文脈依存性が高い点、③*as*-simile の型が影響して、色以外の意味が喚起されやすい点である。

本稿では *as*-simile の分析に重点が置かれたため、複合語についてさらに特徴を発見する必要がある。特に主意については扱わなかったため、Novoselec & Parizoska (2012)、Parizoska & Novoselec (2014)の主張の批判には不十分であったと言える。また、*white* の *as*-simile 上位には顔面蒼白を表す直喩が集中している。*white as a sheet* は顔色の悪さに使用され、*white as snow* は幅広い文脈に現れ、顔の青白さをも形容する(竹森 2022)。*as*-simile の 1 位・2 位を占める *white as snow* と *white as a sheet* の頻度が近い値であるが、複合語の 1 位・2 位は例数の差がある。小説の中で、*as*-simile による顔色の変化の描写が発達していることを示唆しているが、これと *as*-simile の構文・比較マーカーの存在と関連する議論があるのか、今後の課題として検討が必要である。

参考文献

Berlin, B. & P. Kay. (1969). *Basic Color Terms, their universality and evolution*. Berkley: University of California Press.

Cruse, A. (2004/2011). *Meaning in Language: An Introduction to Semantics and Pragmatics*. 3rd edition. Oxford: Oxford University Press UK.

Emmer, J. (2020). "Boring as hell: a corpus study of intensifying post-modification of predicative adjectives in the 'ADJ as NOUN' frame". *Linguistica Pragensia*, 30(2), 127-137.

Lakoff, G. & M. Johnson. (1980). *Metaphors We Live By*. Chicago: The University of Chicago Press.

Lakoff, G. (1987). *Women, Fire, and Dangerous Things: What Categories Reveal about the Mind.* Chicago: The University of Chicago Press.

Lakoff, G.& M. Turner. (1989). *More than Cool Reason: A Field Guide to Poetic Metaphor.* Chicago: The University of Chicago Press.

Lindquist, H. (2009). *Corpus linguistics and the description of English*. Edinburgh: Edinburgh University Press. (渡辺秀樹・大森文子・加野まきみ・小塚良孝訳(2016). 『英語コーパスを活用した言語研究』. 東京：大修館書店.)

Moon, R. (2008). "Conventionalized *as*-similes in English: A problem case". *International Journal of Corpus Linguistics*. 13(1), 3-37.

Norrick, N. (1986). "Stock similes". *Journal of Literary Semantics,* XV(1), 39–52.

Novoselec, Z. & J. Parizoska. (2012). 'A corpus-based study of similes and cognate adjectival forms in English, Swedish and Croatian', in A. P. Bertrán, J. M. P. Bretaña, & L. L. Nadal (ed.), *Phraseology and Discourse: Cross Linguistics and Corpus-based Approaches*, Baltmannsweiler: Schneider Verlag Hohengehren, 101-110.

Parizoska, J. & Z. Novoselec. (2014). 'Idiom variation and grammaticalization: a case study,' in A.Peti-Stantic & M. M. Stanojevic (ed.), *Language as Information*, Berlin : Peter Lang Verlag, 179-192.

Richards, I. A. (1936). *The Philosophy of Rhetoric*. Oxford: Oxford University Press.

Svartengren, T. H. (1918). *Intensifying Similes in English.* Lund: Gleerupska.

Tartakovsky, R., Fishelov, D., & Y. Shen. (2019). "Not as clear as day: On irony, humor, and poeticity in the closed simile," *Metaphor and Symbol*, 34(3), 185-196.

Trim, R. (2011). *Metaphor and the historical evolution of conceptual mapping*. London: Palgrave Macmillan.

Wyler, S. (1992). *Colour and Language: Colour Terms in English.* Tübingen: Gunter Narr Verlag Tübingen.

菊地礼(2022). 「直喩による程度表現の働き」.『表現研究』. 第 115 号, 14-23.

久野愛. (2021). 『視覚化する味覚—色を彩る資本主義』. 東京：岩波書店.

須賀川誠三. (1999). 『英語色彩語の意味と比喩—歴史的研究』. 東京：成美堂.

瀬戸賢一. (1997). 『認識のレトリック』. 東京：海鳴社.

竹森ありさ. (2022). 「色彩語 white を含む強意直喩表現の分析—*white as snow/ a sheet/ marble* の比較—」『英語のレトリック・日本語のレトリック(言語文化共同プロジェクト 2021)』.(大森文子編集).大阪大学大学院言語文化研究科, 43-53.

新妻明子. (2013) 「心的状態を表す英語の色彩語メタファー：認知意味論に基づく意味拡張のプロセス」.『常葉大学短期大学部紀要』第 44 号, 47-62.

福田邦夫. (1994). 『ヨーロッパの伝統色—色の小辞典』.東京：読売新聞社.

————. (1999). 『色の名前はどこからきたか—その意味と文化』 東京：青娥書房.

————. (2017). 『色の名前事典 507 』. 東京：主婦の友社.

————. (2023). 『色の名前事典 519 』. 東京：主婦の友社.

三田寛真. (2023). 「西洋修辞研究における simile」.半沢幹一(編). 『直喩とは何か—理論検証と実例分析』. 9-36. 東京：ひつじ書房.

吉村耕治. (1997). 「中期英語の色彩表現の曖昧性」. 『英語青年』. 142(10), 550-554.

渡辺秀樹. (2005). 「強意的頭韻直喩 "as dead as a/the dodo" の発達と異種」. 『言語文化研究』, 第 31 号, 163-186.

辞書・コーパス

『リーダーズ英和辞典(第 3 版)』(研究社)

『新英和大辞典(第 6 版)』(研究社)

『ランダムハウス英和大辞典(第 2 版)』(小学館)

The Oxford English Dictionary. Oxford University Press, March 2024. (https://www.oed.com)

Oxford IDIOMS Dictionary for learners of English. Oxford University Press 2001 and 2006.

Dictionary.com (https://www.dictionary.com)
Davies, Mark. (2008-) *The Corpus of Contemporary American English* (COCA). Available online at https://www.english-corpora.org/coca/.
Davies, Mark. (2004) *British National Corpus* (from Oxford University Press). Available online at https://www.english-corpora.org/bnc/.
HUM19UK, Version 1. (2019). University of Huddersfield, Utrecht University, University College Roosevelt, Middelburg. (https://www.linguisticsathuddersfield.com/hum19uk-corpus)

サイト最終閲覧日 2024 年 5 月 12 日